防災企画　前編●地震に備える

自分を守る。地域を守る。

いつ起こるかわからない自然災害。中でも、宮城県沖地震は近い将来必ず起こるといわれています。9月1日は「防災の日」。災害に備えて、自分、家族、そして地域を守るために、わたしたちは何をすればいいのか―地震への備えを中心に紹介します。（後編は広報9月15日号に掲載予定）

発生確率は99％ 宮城県沖地震

政府の地震調査推進本部地震調査委員会は、「宮城県沖地震の長期評価」を発表しています。

その評価では、宮城県の牡鹿半島沖を震源（地震の起こる場所）として、地震の規模を表すマグニチュード7・5前後、場合によっては8・0前後となる大きな地震が、▽10年以内に50パーセント▽20年以内に90パーセント▽30年以内に99パーセントの確率で発生すると予想されています。

宮城県沖地震は、過去200年の間に6回発生。その間隔は最短で26・3年、最長で42・4年、平均で37・1年となっています。昭和53年6月に発生した地震から28年が経過しているので、すでにいつ地震が発生してもおかしくない時期となっていることがわかります。

これらのことから、「宮城県沖地震」が発生する可能性は、一層高まっているといえます。

三陸南地震（平成15年5月）で市道に発生した亀裂

地震が起きたら…家族で備える10カ条

1 まず我が身の安全を守る

ケガをしたら火の始末や避難行動にも支障が生じます。家具などの転倒・移動防止対策をしておくことが肝心です。

2 すばやく火の始末

小さな揺れでも、ガスコンロなどの火はすぐに消しましょう。

普段から、火元付近に燃えやすいものは置かないように心がけましょう。

3 戸を開けて出口を確保

揺れが激しいと戸が変形して開かなくなり、室内に閉じ込められたりします。マンションなどの中・高層住宅では出口の確保が特に重要です。

4 火が出たらすぐ消火

火災が発生しても天井に燃え移る前なら、あわてずに初期消火に努めましょう。消火器具の備えは忘れずに。

5 外へ逃げる際はあわてずに

外へ逃げるときは、瓦やガラス、看板などの落下物に注意しましょう。あわてずに落ち着いて行動してください。

6 狭い路地やブロック塀には近づかない

屋外にいたら公園などに避難しましょう。ブロック塀、門柱、自動販売機などは倒れやすいので近づかないように。

7 津波、山崩れ、がけ崩れに注意

海岸地帯や山間部で地震を感じたら、早めに避難しましょう。居住地の自然環境をよく知っておくことも重要です。

8 避難は徒歩で、荷物は最小限に

避難先と避難路について日ごろから家族で話し合っておきましょう。自主防災組織などの指示で集団で行動しましょう。

9 協力し合って応急救護

多数の負傷者が出ると病院などの手当てにも限界があります。地域ぐるみでの応急救護の体制づくりが大切です。

10 正しい情報を聞く

うわさやデマに振り回されないように、ラジオやテレビ、市などからの信頼できる情報を入手し、的確な行動をとりましょう。

ご存知ですか？災害時の「声の伝言板」
災害伝言ダイヤル171

伝言の録音方法	伝言の再生方法
「171」をダイヤル	
ガイダンスが流れます	ガイダンスが流れます
1 をダイヤル	2 をダイヤル
ガイダンスが流れます	ガイダンスが流れます
被災地の電話番号（例）012-345-6789 ※必ず市外局番からダイヤルする	
ガイダンスが流れます	ガイダンスが流れます
録音（30秒以内で話す）	再　生

非常持ち出し品の一例。家庭でも点検を…

上左　レトルト食品を、まきを使って沸かした湯で調理した夕食
上右　夜はダンボールや毛布にくるまって寝ました。夏でも夜は思いのほかの寒さ
下右　訓練用人形を使って心肺そ生法などの応急手当訓練

避難所の生活を実体験 サバイバルキャンプ

大きな災害が発生したとき、臨時的に生活する場として学校や公民館などの公共施設に開設される避難所。この避難所での生活を模擬体験するため、「避難所生活体験（サバイバルキャンプ）」が7月28日、29日の両日、産業教養文化体育施設（アイドーム）で行われました。

「もし自分が災害にあったらどのように行動したらいいのかを学びたい」と話す菊池大志君（千厩・町下少年消防クラブ）と、「今回のような避難生活を体験しておくと、いざという時に役立つと思い参加した。さまざまな連絡事項が避難住民にどのように伝達されるのかに関心がある。また、みんなが不安なく避難生活を送るにはどういうことに気を付けたらいいのかを考えてみたい」と話す阿部恭子さん（花泉町花泉）は、共に初めての参加。当日は、地震により建物が倒壊しライフラインが寸断されたという想定で、自主防災組織員、少年消防クラブ員など69人が避難所生活を体験しました。

参加者は、避難所で生活する上での約束事やグループ内の役割分担などを決めて、避難所生活をスタート。非常用保存食の調理・試食、災害図上訓練や応急手当て訓練などを通して、避難所生活に必要な知識や備えを身に付けていました。

迅速、的確な応急対策のために―

県総合防災訓練を実施します

本年度岩手県総合防災訓練を9月1日「防災の日」に総合体育館（ユードーム）およびその周辺で行います。市民の皆さんの協力と参加をお願いします。

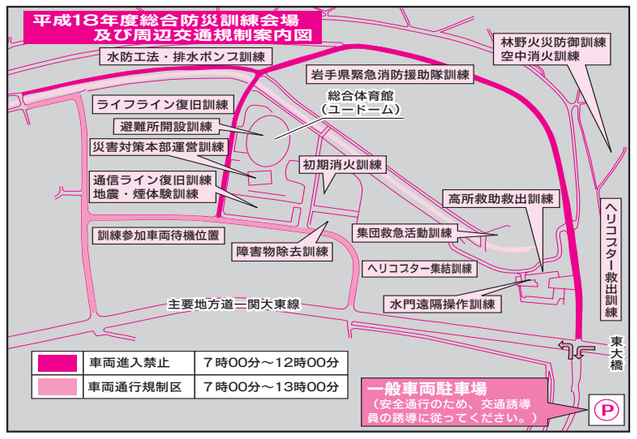
●消防用サイレンを吹鳴します

当日は、午前7時30分から会場周辺で訓練車両がサイレンを鳴らしながら緊急走行しますので、火災と間違えないよう注意してください。

●交通規制が行われます

当日は、防災機関と地域住民が一体となった総合的かつ実践的な訓練を行うため、現地周辺（案内図参照）で午前7時から午後1時まで交通規制が行われます。誘導員の指示に従うよう協力ください。

●訓練の参観をお待ちしています

今回は、住民参加訓練として避難訓練、消火訓練、救出・救命訓練などの体験が午前8時から行われます。多数の皆さんの参観と来場をお願いします。

◎問い合わせ先
消防本部消防課
☎㉕0119